

住友理工、InnoRail India 2016 に出展 ～鉄道車両向けの防振技術を紹介～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長兼 COO：松井徹）は 12 月 1 日（木）から 3 日（土）までインド・ラクナウ市で開催された「InnoRail India 2016（第 2 回 鉄道・メトロ・モノレール技術革新展示会・会議）」に出展し、当社の鉄道車両向け防振技術の紹介を実施しました。



「日本鉄道シンポジウム」における
当社プレゼンテーション



当社ブースを訪れた現地の鉄道関係者

インドでは、2023 年に開業を予定する同国初の高速鉄道の建設にあたり、日本の新幹線方式の採用がすでに決定。今回の「InnoRail India 2016」では日本の最先端の鉄道技術を紹介するジャパンパビリオンが設置されました。

当社は、ジャパンパビリオン内の総合商社 CBC のブースにおいて、日本の新幹線などに採用されている鉄道車両向けの防振技術の紹介と製品サンプルの展示を実施。

また、会場で行われた「日本鉄道シンポジウム」では、当社の最新技術に関するプレゼンテーションを行いました。当社の鉄道車両用防振ゴムは、新幹線や国内外の鉄道車両の台車部分に取り付けられるもので、車両の振動を低減することができること、また、コアコンピタンスである「高分子材料技術」により生み出された独自開発のゴム材料により、長寿命・高耐久性を兼ね備え、過酷な使用環境においても振動を十分に低減できることをインドの鉄道関係者に向けて提案しました。

当社が鉄道車両用防振ゴムの開発に参入した歴史は古く、東海道新幹線が開業した頃まで遡ります。世界トップシェアを誇る当社自動車用防振ゴムのノウハウから生まれた当社の鉄道車両用防振ゴムは、繰り返しの振動や過酷な環境にも耐え、国内だけでなく海外の高速鉄道にも採用されています。今後は、インドをはじめ、これから高速鉄道を整備する国や地域に向けて、これまでに培ってきたノウハウを生かした提案を積極的に行い、鉄道インフラの発展に貢献してまいります。



当社の鉄道車両用防振ゴム

以上